

「民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会」
防災まちづくりワーキング（第二回）

議 事 次 第

日時：平成17年3月4日（金）

13：00～15：00

場所：虎ノ門パストラル 新館4階 ミント

1． 開 会

2． 議 事

- （1）モデル地区視察中間報告について
- （2）防災まちづくりポータルサイトについて
- （3）防災フェアの活用の検討について
- （4）その他

3． 意見交換

4． 閉会

（配布資料）

資料1：モデル地区視察中間報告

資料2：防災まちづくりポータルサイトについて

資料3：防災まちづくりプロジェクトのその後

（安全・安心まちづくり女性フォーラムのフォロー調査）

資料4：防災フェアの活用の検討について

資料5：今後の調査スケジュール

平成17年3月4日

民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会

防災まちづくりワーキング

委員名簿

座長	伊藤 滋	財団法人都市防災研究所 会長
	青山 佳世	フリー・アナウンサー
	井出 隆雄	ジャーナリスト
	井野 盛夫	富士常葉大学環境防災学部教授
	大国 道夫	大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進 協議会（三菱地所株式会社 ビル事業本部 都市計画事業室長）
	加藤 孝明	東京大学都市工学科助手
	坂本 仁一	(社)日本損害保険協会 業務企画部企画・安全 技術グループ
	須永 淑子	NPO法人江東区の水辺に親しむ会 理事長
	田畑日出男	東京商工会議所コミュニティ再生委員長
	富永 一夫	NPOフュージョン長池 理事長
	中村 陽一	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科教授
	松岡 勝博	那須大学 教授
	安井潤一郎	全国商店街震災対策連絡協議 理事長 (早稲田商店会長)
	山口ひろこ	イゴス環境・色彩研究所 所長

平成17年3月4日

民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会

防災まちづくりワーキング

第2回出席者名簿

座長 伊藤 滋	財団法人都市防災研究所 会長
井出 隆雄	ジャーナリスト
井野 盛夫	富士常葉大学環境防災学部教授
大国 道夫	大手町・丸の内・有楽町地区再開発計画推進協議会 (三菱地所株式会社ビル事業本部都市計画事業室長)
加藤 孝明	東京大学都市工学科助手
坂本 仁一	(社)日本損害保険協会業務企画部企画・安全技術グループ
須永 淑子	NPO法人江東区の水辺に親しむ会 理事長
田畑日出男	東京商工会議所コミュニティ再生委員長
富永 一夫	NPOフュージョン長池 理事長
中村 陽一	立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科教授
安井潤一郎	全国商店街震災対策連絡協議会 理事長 (早稲田商店会長)
山口ひろこ	イゴス環境・色彩研究所 所長

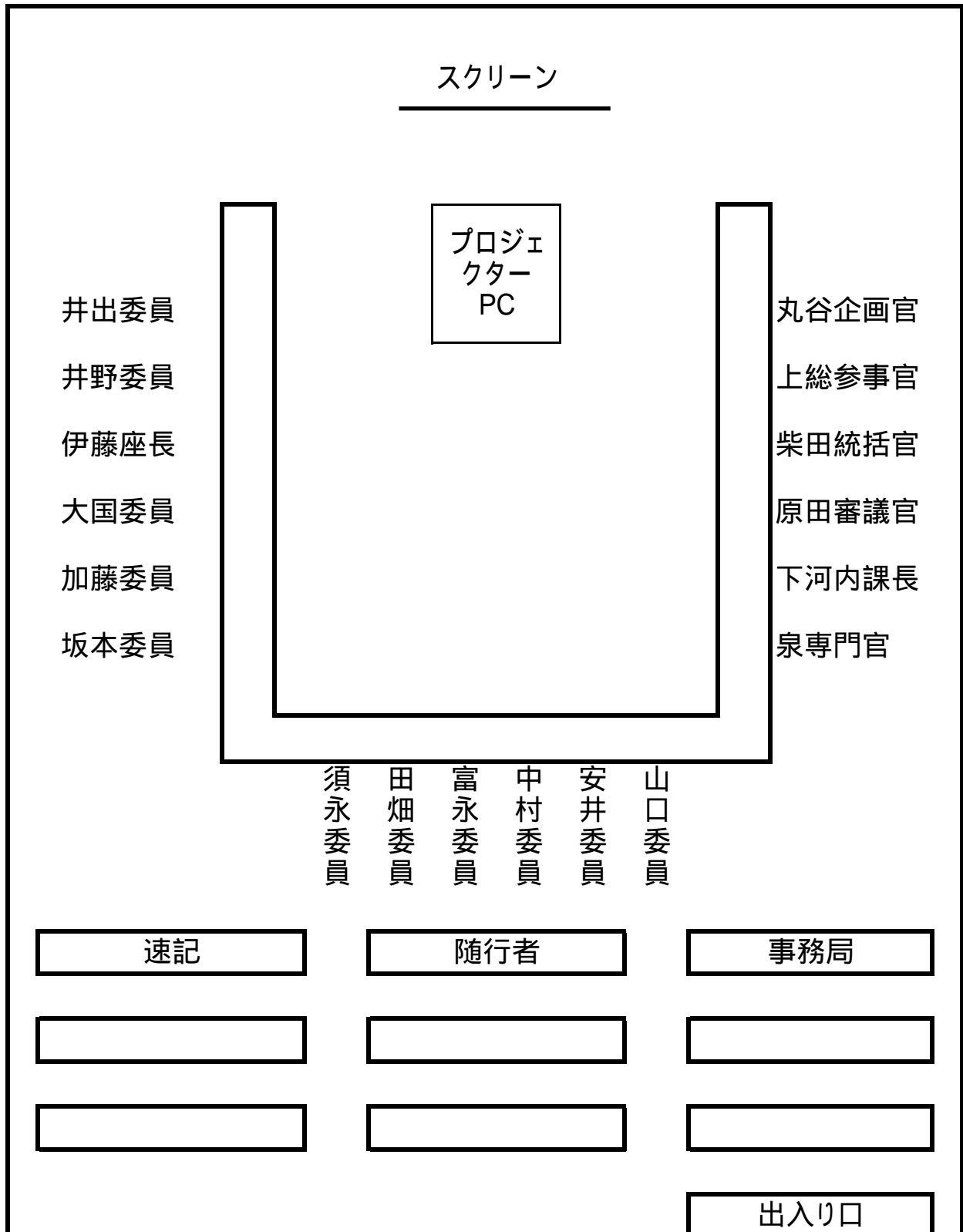
行政側

柴田 高博	内閣府政策統括官(防災担当)
上総 周平	内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(地震火山対策担当)
丸谷 浩明	内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(予防担当)付企画官
下河内 司	消防庁防災課長
泉 鉄男	国土交通省都市・地域整備局都市防災対策専門官
橋本 公博	国土交通省住宅局市街地建築課市街地住宅整備室長

「民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会」
防災まちづくりワーキング(第二回)座席表

日時:平成17年3月4日(金) 13:00~15:00

場所:虎ノ門パストラル 新館4階 ミント



モデル地区視察中間報告

1. 番外ワーキング「FUSION長池」

(1) ワーキングの内容

実施日時：2005年2月10日(木) 14:00~15:00

場 所：長池ネイチャーセンター(多摩ニュータウン内)

1) 視察(14:00~15:00)

- ・長池ネイチャーセンター(富永館長より設立の経緯、施設内容・活動の説明)
- ・周辺散策(炭焼き小屋、耕作地など:センタースタッフ、里山を守る住民活動関係者より、活動内容などの説明)

長池公園周辺



長池ネイチャーセンター方面
(左写真の反対側:谷戸・里山を保全)



長池ネイチャーセンター内部



地域の模型による説明(富永氏)



炭焼き小屋と谷戸の耕作地(手前)
(長池ネイチャーセンター隣接地)



水車小屋(右)と谷戸の耕作地
(炭焼き小屋に続く地域)



2) 地域と防災についての意見交換会 (15:00~ : 長池ネイチャーセンター展示室にて)

センターに関わるキーパーソンによる活動とメーリングリスト等情報ツール活用について



- ・インターネットを学び、HPを作成。地域のメーリングリスト「ぼんぼこネット」を活用、人の輪を広げてきた。牧場の装置が壊れたときにはMLから多くの人が助けに来た。
 - ・三宅島からニュータウン内の都営住宅に疎開している高齢者（農業者）へ、遊休耕作地を貸すなどの支援も行なっている（「元気牧場」）。
 - ・地域の情報は大事。黙っていたらつまらない。ITを活用した活動は、はじめてみると面白い。行政はこうした活動の足を引っ張らず、援護射撃をしてくれたら幸せだ。
 - ・地域のメーリングリストでは良質な情報のやりとりができています。人と人との信頼関係がもとになって構築されているので、ネットのチャットなどとはレベルが違います。
 - ・通信インフラを日常で楽しく使っているから、いざというときも使える。当施設が建設中火災に遭った際、MLから情報が入り、その後もMLメンバーが「見守り」をして状況を知らせてくれた。防災無線をたまの訓練時にだけ使ってもできないことだ。MLは「良質の使い手」がいなければこうしたことはできない。匿名で悪口などを書き込まれたら、結果ここに住めなくなる。絶対に喧嘩や議論をしない人を自分で確認して広げてきた。現在約450人が参加（まちの0.1~1%）。文章を使う人は人数に限りがあるが、その力が地域のエネルギーになった。
 - ・実用実験の場として、長池ネイチャーセンターにカメラを設置。ここでの活動状況、高尾山（平時）や八王子市街を24時間中継。「火の見やぐら」の現代版になっている。
 - ・アドホック通信について、小学校の校門やマンホールなど、そばを通ると通ったことが分かる仕組みを使い「電子お守り」を開発している。防犯に使える。カナダバンクーバーで取り上げられているが、国内では制度的な問題なども含め、採用はない。
 - ・安全なまちのため地域貢献が会社の利益にもなる。自分たちの技術、資金をフュージョン長池に投資していくことで、会社の知名度も上がる。
 - ・テクノロジーの活用においても「平時に何をするか」が大事だ。地域の防災ネットは防災無線よりももう少し効率のいい方法で、かつ平時にも使えるようにしてほしい（防災の関係は平時には使えないという話になっていることが多い）
- インターネットカメラはエイビット社の所有物で置いてあるだけという形にしている。

市の管理運営施設では融通が利かないが、NPOなら言い訳がきく。
防犯についてのニーズが高まっている。バス停などに電子お守りを置き、タクシー会社コールセンターなどと連携するなどアイデアはあるが、使用の許可や予算が欲しい。



センター展示室壁面に設置されたカメラ。
実験により、全体が分かり、かつプライバシーが守られるカメラ位置がここ

2) 質疑

「元気牧場」について

都営住宅で「鳥のケージ」にいる感覚で元気をなくしていた三宅の人々を畑の手伝いに呼んだのがきっかけ。三宅村の福祉課長とインターネットで知り合い、何が出来るかを話したことからアイデアが出た。三宅の人々の状況は、地域の人をよく知っていても、表現手段がなければ、表現できない。

「ぼんぼこネット」について

多摩ニュータウン周辺には大学がたくさんあり、インターネットの使い方を先生方が教えてくれた。ツールを得て、みんなに知らせたい地域情報をぼんぼこネットに載せることができた。(リアクションが短時間で大量にあるので) あることについてニュータウンの人がどう考えているかなど地元議員が聞いてくることもある。

ここは電線は全て地中化され、光ケーブルが玄関まで来ているので、引っ越してきてからインターネットをするようになった。(=インフラは整っているので、やる気がある人ならすぐ始められる)

若い人は主婦でもネットを普通に使う。PTAの知らせなど実務的な話は皆メールを使う。このまちでは地域住民の8~9割はHPをみる事ができる。

ただし、ぼんぼこネットは実務的な使い方とは違うものだ。今は他にもMLはいろいろあり、最盛期ほど活発ではないが。

こうしたものは、最初に集まった人が実証して見せることが大切。仕組みをなげて「使いなさい」はダメだ。人が活動しているところに、応援する形で仕組みを投げる事が重要だ。

このまちは昼間は人がほとんど歩いていないベッドタウン。「目線」がないので、ゴミや放置自転車が溜まり、花が抜かれたりする。「良質な目線」を育てる努力が重要だが、その土地に住んでいる人しか「目線」の性質は分からないし、やれない。役所にやってくれというのはダメだ。

東京都の職員がぼんぼこネットをはじめ、我々の活動をPRしてくれたので、社会的信用を得られた面は大きい。

多摩ニュータウンの人口統計をGIS情報にしたいと思っている。夢としては、GIS

に電子お守りや交通情報なども載せ、防災防犯を含めた地域まるごと平時も非常時も使える情報として発信していきたい。

(2) ワーキング結果のまとめ

1) 技術の普及・啓発による防災まちづくりの促進

フュージョン長池では、インターネットカメラを活用し、地域の防犯、防災に役立てることを検討し、実際民間企業と協力し、長池ネイチャーセンター展示室や、高尾山頂上部にインターネットカメラを設置、現代の『火の見やぐら』として、リアルタイムの現場状況を HP を通じて公開している。このような新たな技術の活用は、従来のまちづくり活動に防災風味を付加し、今後の防災まちづくりの参考になるものがある。また電子タグをまもり袋に入れた「電子お守り」を地元企業が考案しており、地域住民の位置確認・ID 確認を通じて、簡易な相方向通信や防災・防犯システムに道を開く可能性も垣間見えてきている。

2) メーリングリストの効果的活用による、地域交流とコミュニティの強化

フュージョン長池では、活動の立ち上げ期に、メーリングリストを活用した情報共有・発信に大きな効果を挙げた。

完成直前に長池ネイチャーセンターが燃えた際も、メーリングリストを通じた、火災発生時の情報発信と共有が、その後の再建に向けての地域の動きにも、プラスに働いたという指摘がされている。

このような、メーリングリストの活用のあり方は、防災を核とした、コミュニティ形成や地域交流の促進に寄与するものである。

2. 視察報告「特定非営利活動法人日本公開庭園機構」

実施日時：2004年12月21日（木）13：00～15：30

場 所：国立市安全緑地設置場所、国立市役所

（1）視察（13：00～14：00）

- ・大学通り（景観を守り、緑化活動が盛んになった経緯の説明）
- ・安全緑地（設置経緯、安全緑地の整備内容の説明）



大学通り沿道（植栽帯に囲まれた緑地は市民により管理）



道路買収残地を活用した安全緑地（石材、木材は全て、リサイクルによるもの）



公園の一部を活用した設けられた安全緑地、不要な石材をベンチに活用できる配置。植栽帯をどれにしたら良いか、高さが分かるような工夫もされている。

(2) 説明と質疑 (14 : 00 ~ 15 : 30)

場所 : 国立市役所

1) 安全緑地提案の趣旨と経緯について

国立市では、大学通りとのシンボリックな緑地空間を軸に、市域の緑を守る取り組みを積極的に進めていた。

そこに協力いただいたのが、NPO 法人日本公開庭園機構であった。国立市都市計画マスタープラン、国立市緑の基本計画の策定作業を通じて、安全緑地整備を実現しようということになり、市内に安全緑地を設置することとなった。

これ以外も防災ボランティアの組織化などについても協力をしていただいている。

機構の理事は元々、住宅デベロッパーにあり、その頃から環境共生の仕組みを組み込んだ住宅づくり、まちづくりを進めていた。

イギリスでの視察体験が核となって、ガーデニングを切り口として、一般の人たちが、身近な環境の緑化に関わっていく方策として、安全緑地という考えにたどりついた。

安全緑地とは民地の一部を公開空地として提供することにより、防災、環境、景観、など、様々な面から地域の環境改善を実現するもの。大工、植木職人、建築家など、様々な専門家の協力により、実際に安全緑地を設置・整備する取り組みを進めている。

活動を継続してきて分かったことは、ガーデニングに対しては身近な市民の関心が高まっていることである。最近、近所の主婦方がこのような活動に参加する輪が広がっている。成城学園では、住宅展示場の整備を行うにあたって、土地の一部を提供頂き、様々な企業からの支援を受けて、安全緑地を整備した。



成城住宅展示場内に完成した「安全緑地見本園」(環境事業団と企業の支援による整備)

2) 防災を切り口にした取り組みの可能性について

資料に防災という切り口が入っていないという指摘を受けたが、当初の発想から、街を安全にしようという防災の視点は持っていた。

実際に、多摩地域を対象に、生活道路の安全をチェックし、これを報告書やパネルにまとめたり、個人の住宅で優れた緑化を行っている事例を取り上げ、まとめるという取り組みを行った。

地震の時に、ブロック塀が倒れると大変危険というような、具体の事例を示し、防災意識を高めながら、安全緑地を作り出す取り組みを進めていきたい。

(以上)

(2) ワーキング結果のまとめ

1) 行政・企業とのコラボレーション

日本公開庭園機構では、国立市に働きかけ、安全緑地整備を受託整備で行い、また、その後も、安全緑化を推進するため国立市からの委託を受け、ガーデン相談会・講習会を実施している。

また、成城住宅展示場内に整備された「安全緑地見本園」については、環境事業団による補助(240万円)だけでなく、10社を超える企業の支援を受け、安全緑地整備を行っている。このように、行政・企業とのコラボレーションは、今後の防災まちづくりに寄与する面が大きい。

- 資料 「成城・安全緑地見本園のご案内」東京をエコフレンドリーなまちにする
「国立市・安全緑地見本園」のご案内
「市民活動によるチャイルドパークづくり実践プロジェクト」
「市民がつくるまちの緑(景観), まちの安全」 「安全緑地づくり」
くにたち災害ボランティアコーディネイトマニュアル(案)
国立市緑の基本計画2003 2022

防災まちづくりポータルサイトについて

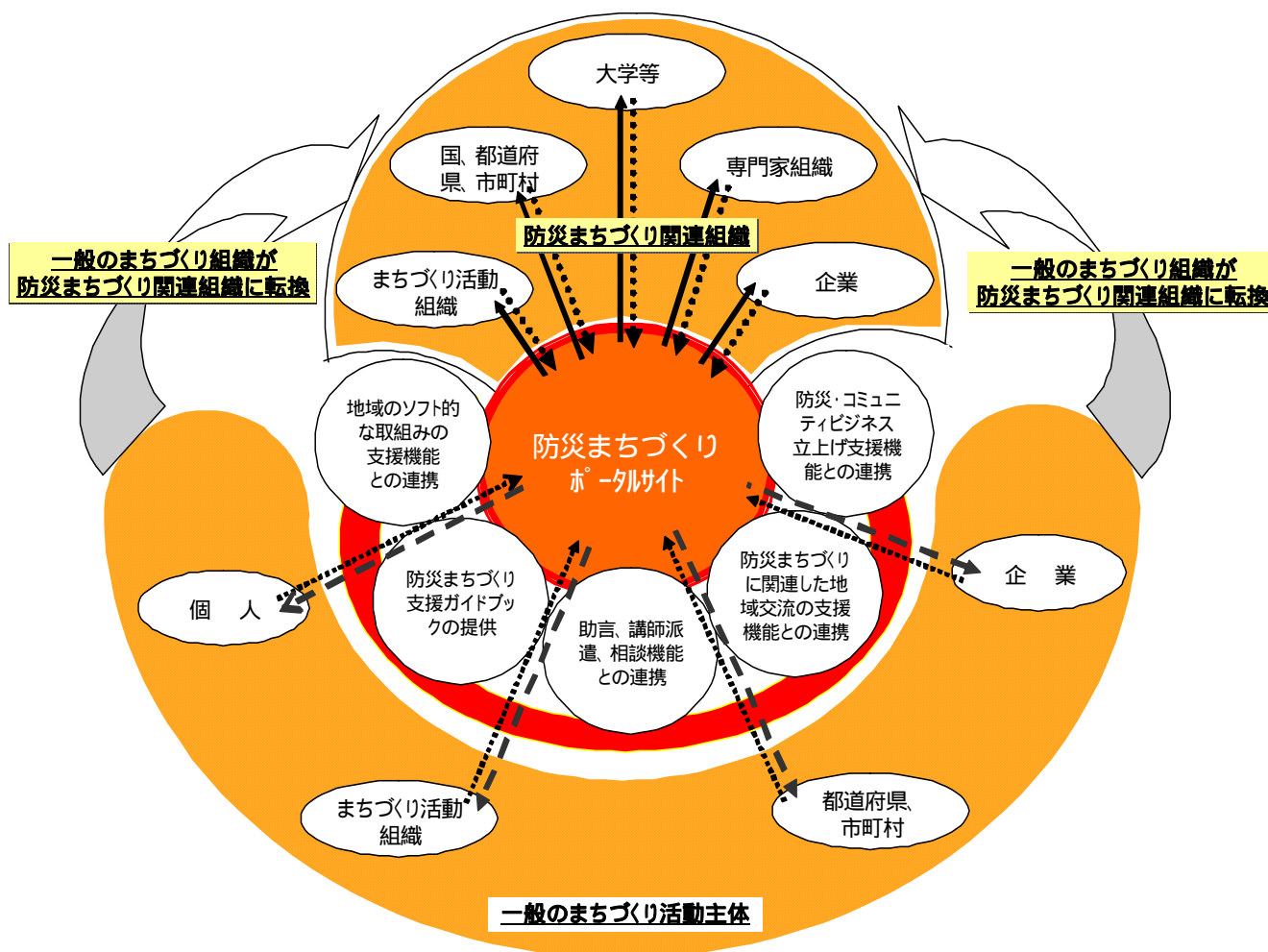
1. 基本的考え方

～防災まちづくりポータルサイトを核とした支援策の展開～

防災まちづくりを全国に広げていくため、防災まちづくりポータルサイトを核として、様々な支援策を段階的に構築していく。

支援策と連携するように、防災まちづくりポータルサイトの入り口を構築し、関係組織とのリンク等を通じて、防災まちづくりを進める上で役立つ全国のリソース（情報・技術・人材）を活用しつつ、防災まちづくり支援を進めていく。

図 防災まちづくりポータルサイトを核とした支援策の展開イメージ



凡例	リンク/情報提供▶	アクセス/情報検索▶
	情報提供・交流	————▶	情報提供/参加機会の提供	- - -▶

2. 防災まちづくり支援施策

2-1. 防災まちづくりポータルサイトの構築

(1) 目的

防災まちづくりを全国に広げていくため、防災ポータルサイトの構築を核として、防災活動に関わってこなかった個人、まちづくり組織が、防災に関心を持ち、防災活動にも取り組むきっかけとなる様々なツールを提供する防災ポータルサイトを構築する。

以下の3点を目的として防災ポータルサイトの構築を行う。

防災に加えて、福祉、緑化、環境共生、教育など、様々な活動を取込み活動が行われている「防災まちづくり」事例を紹介し、まちづくり活動の延長線上で防災活動が可能なことを知っていただく

防災まちづくりへの取り組むために役にたつ道具(情報、人材、資金、ノウハウ)を紹介、提供し、防災まちづくり活動を広げる

ポータルサイトを活用した交流の場を提供することで、「防災まちづくり」を様々な地域に広げ、また、ネットワーク化する

(2) 防災まちづくりポータルサイトの構成(案)

防災まちづくりポータルサイト構築にあたっては、防災まちづくりの全貌が分かるようにその全体像を紹介しつつ、防災まちづくり事例、防災まちづくり支援制度の紹介を行い、これを補完するように、防災まちづくり案内処で、防災まちづくり初心者から、専門家まで、幅広いニーズに応えた、様々な情報・ノウハウ・技術・人材情報を紹介、提供する。

(全体の構成イメージについてはP4参照)

(3) 防災まちづくりポータルサイト構築の効果

1) 双方向での情報発信と交流

防災まちづくりへの取り組みを書き込む登録フォームや、掲示板、BLOGなどを活用することにより、情報の陳腐化を防ぎつつ、防災まちづくりに関する情報交流と発信を行うことが可能となる。

2) 即時の情報の発信・共有

インターネットを活用し、既存の防災まちづくり関連組織とリンクすることによって、様々な関心に応える防災まちづくり情報を、地域、時間を問わず入手することが可能となる。

3) 活用されていない役立ち情報・ノウハウの有効活用

既に様々な専門家組織、大学等において防災教育、耐震化などの様々な役に立つ知識・情報がストックされているが、必ずしも十分に活用されていない。そこで、これらの資源を発掘し、取り込むことによって、国民各層の防災まちづくりへの関心を高めることが可能となる。

4) 防災まちづくりへ関心を持つ人々の交流の場の提供

掲示板機能などでオンライン上の連携を行うとともに、オフラインでの防災まちづくり関係者の交流の場を提供することで、防災まちづくり活動の輪を全国に広げることが可能となる。

2-2. 防災まちづくり支援ガイドブックの作成

(1) 目的

- ・ 防災まちづくり支援ガイドブックを作成し、個人やまちづくりに関心を持つ方々が、防災活動に関心を持ち、防災まちづくりの概要を手軽に理解できるよう支援する。講習会などに活用することを目指す。

(2) 防災まちづくり支援ガイドブックの構成(案)

- ・ 先の防災ポータルサイトの一部を、『防災まちづくり』を如何に行うかを分かりやすく示したガイドブックとして構成する。ガイドブックは、防災まちづくりの研修等に活用を図ることとする。

【ガイドブック構成・案】

1. 『防災まちづくり』とは何？
 - ・ なぜ、防災まちづくりか？
 - ・ 『防災まちづくり』の広がり
2. 『防災まちづくり』の早分かり
 - ・ 様々な分類から、防災まちづくり事例を紹介
(分類例)
 - 段階別
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
3. 防災まちづくり支援制度の紹介
 - 支援対象
 - 支援内容
 - 支援適用事例の紹介

2-3 . 防災ポータルサイト構築に関連して展開を検討する支援策

(1) 防災まちづくり関係者の交流会の実施

- ・ 毎年行われている防災週間にあわせて、防災まちづくり関係者の交流会を開催する。
- ・ 交流会にあわせて、防災まちづくりコンペティションを行い、優れた取組みについては、表彰するとともに、防災ポータルサイト構築を通じて、全国のまちづくり組織に優れた防災まちづくりへの取組みを広く発信することを検討する。

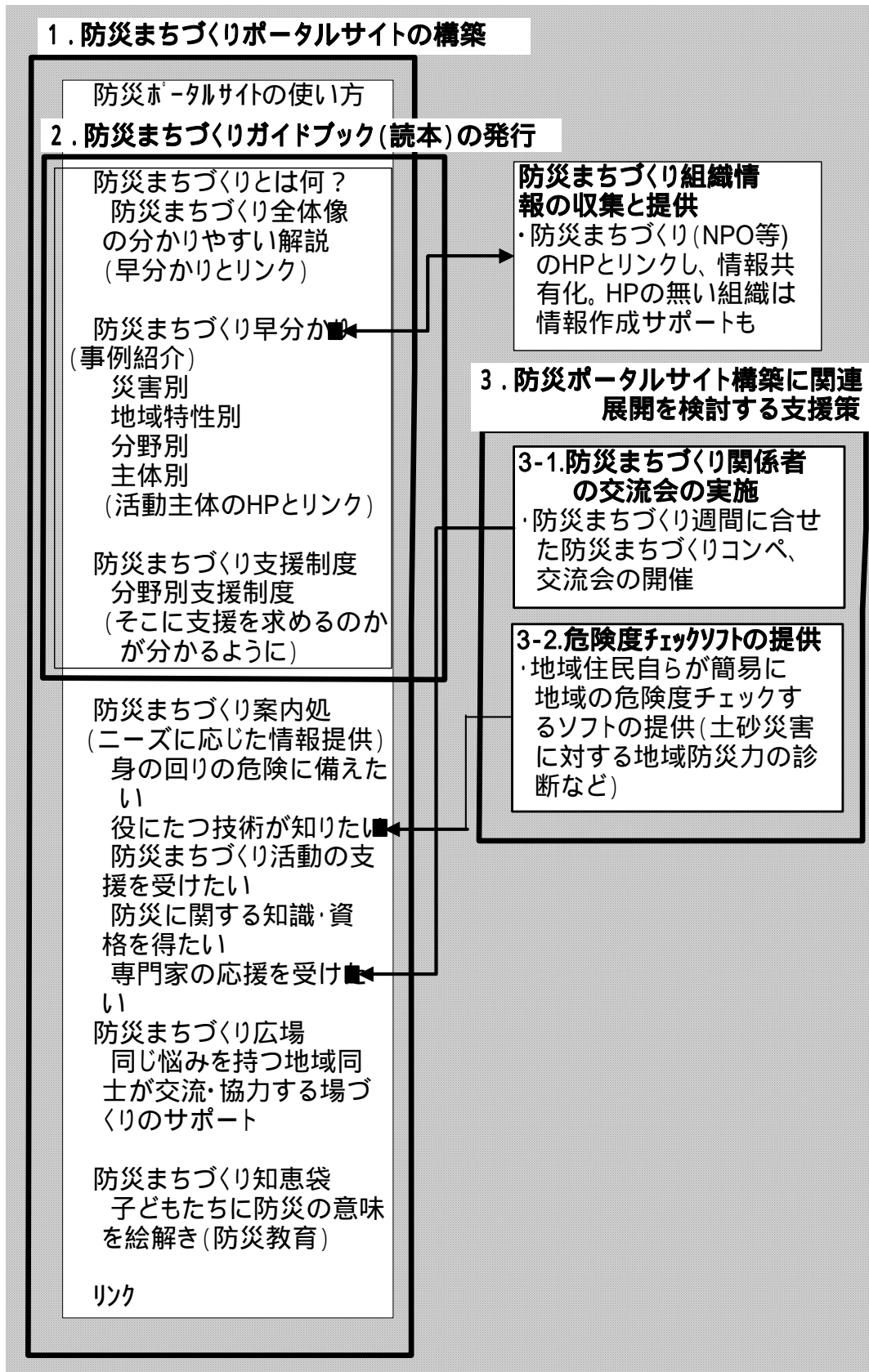
(2) 地域危険度チェックシステムの提供

- ・ 防災まちづくりを、地域住民が自ら進めるためのツールとして、地域の危険度を自ら簡単にチェックできるシステムを紹介、提供する。
- ・ 地域危険度チェックを行うことのできる仕組みを提供することで、自治体の規模・能力を問わず、各々の地域での防災上の課題を住民自らがチェックし、防災まちづくりを進める活動を側面から支援する。

【提供する地域危険度チェックシステム(例)】

土砂災害に対する地域防災力の診断(内閣府)など

図 防災まちづくりポータルサイトを核とした防災まちづくり支援



防災ポータルサイト イメージ出力（部分出力）

防災ポータルサイトの完成に向けて今後必要とされる作業

事例集の充実

入力フォーマット画面の設置、管理体制の確立

支援政策・支援ノウハウ集の充実

検索機能の高度化

リンク経路の複雑化

分類別リンクなど

検索エンジンの付加



防災まちづくり ポータルサイト へ ようこそ

内閣府



■ 趣旨



■ 防災まちづくりとは何？



■ 防災まちづくり早分かり



■ 防災まちづくり支援制度



■ 問い合わせ先



■ 防災まちづくり案内処



■ 防災まちづくり知恵袋



■ 防災まちづくり広場



■ 関連リンク



■防災まちづくりポータルサイトの趣旨

・地域で普段から防災に取り組むことによって、災害が発生した時の被害軽減を図る「減災」が実現できるのです。

・しかし防災だけを考えた活動を行っていても、災害が発生しない限り、その効果が見え難く、防災活動を継続させることが難しいことが多いようです。

・そこで以下の三点を目的に防災まちづくりポータルサイトを立ち上げました。

①防災に加えて、福祉、緑化、環境共生、教育など、様々な活動を取り込み、活動が行われている「防災まちづくり」事例を紹介し、普段のまちづくり活動の延長線上で防災活動が可能なることを知っていただく。

②防災まちづくりへの取り組むために役に立つ道具（情報、人材、資金、ノウハウ）を紹介、提供し、防災まちづくり活動を拡げる。

③ポータルサイトを活用した交流の場を提供することで、「防災まちづくり」を様々な地域に広げ、ネットワーク化する。

目次

●[TOP](#)

●[趣旨](#)

●[防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)

●[防災まちづくりとは何？](#)

●[防災まちづくり早分かり](#)

●事例紹介

- [災害別](#)
- [地域特性別](#)
- [分野別](#)
- [主体別](#)

●[防災まちづくり支援制度](#)

●[防災まちづくり案内処](#)

●[防災まちづくり広場](#)

●[防災まちづくり知恵袋](#)

●問合せ先

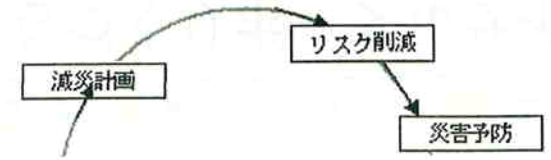
●[リンク](#)

■防災まちづくりとは何？

○なぜ、防災まちづくりか？

- ・災害が発生していない平時の社会システムの一部として、防災を定着させていくことが、社会の防災力を高める上で重要であり、平素からの市民の活動や企業活動の中に災害に備えるという意識が根付くような社会の仕組みや地域での取り組みを作っていく必要があります。
- ・しかし、現在は、防災を主目的とするまちづくり活動組織よりも、防災を主目的としないまちづくり活動組織が圧倒的に多い状況です。そこで、これまでの「防災のために何かをする」だけではなく「〇〇のために防災の取り組みをする」というまちづくりを、防災まちづくりとして幅広く考え、支援していくこととしました。
- ・防災まちづくり活動は、子ども達への社会教育の中に、防災の視点を取込む、街歩きの中で、地域の危険度を探る、震災の体験者に話を聞くといった活動から、防災施設の設置、管理、防災訓練の実施まで、防災まちづくりは、多様な活動の広がりを持っています。
- ・防災まちづくりポータルサイトでは、様々なまちづくり活動にこのような防災まちづくりの風味を取り入れるアイデアを紹介しています。是非ご活用ください。

防災は、普段からの備えが大切！！災害が発生までの準備によって、被害が大きく変わる。



目次

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)



■防災まちづくり早分かり

〈初動編〉

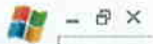
(街の危険度を知る、防災について勉強する)

- 防災の勉強をする
- 街の危険度を知る
- 防災訓練に参加する
- 勤め先からの帰宅困難問題について調べる

〈充実編〉

(日常的な防災活動を進める)

- 地域の仲間と住宅の耐震化を進める
- 災害時要援護者との交流、支援を行う
- 防災施設づくり
- 防災情報を幅広く共有する
- 子供たちとともに防災について調べ発表する



目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何?
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

■防災の勉強をする

事例：市民防災まちづくり学校（国分寺市）

活動対象	<p>国分寺市は、面積約11.48km²、人口約11万人、東京都西部の多摩地域にある住宅都市であり、市民防災まちづくり学校は、国分寺市民を対象に活動を行っている。</p>	 <p>国分寺市</p>
事例研究の視点 経緯	<p>防災まちづくり教育を行ってきた先駆的な地方自治体であり、地域におけるのあり方に示唆を与える事例である。</p> <p>1978（昭和53）年、国分寺市災害危険災害区域図を全戸配布、同時に、防度の講座や行事を実施。1980（昭和55）年講座を受講した市民を防災の担い民「市民防災推進委員制度」を創設。以降、講義の内容を開発指導や地区計画制度の、広げつつ、制度を継続的に実施。</p> <p>1991（平成3）年には、住民との共同調査による「防災地区カルテ」を発行「市民防災まちづくり学校」と名称を変更し、現在に至る。</p> <p>また、1981（昭和56）年以降、自治会毎に、協定を結んで「防災まちづくり」を結んでから3年間、防災まちづくりの専門家（コンサルタント）を派遣した防災まちづくり活動を進めている。（7地区協定締結済み）</p>	
取組みの	<p>■防災診断地図の作成と提供</p>	

目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何？
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

街の危険度を知る

事例：平塚地区


<p>対象地区</p>	<p>人口25.6万人、面積67.88 km²の、神奈川県南部近郊都市。</p> <p>市域南部の花水地区（市域の1/10程の面積）での活動が中心となっている。</p>	
<p>経緯</p>	<p>元々、福祉活動、コミュニティ活動が盛んでNPOとなったまちづくりグループ。震災の時はどうなるのかという不安を住民が持っていたところ、阪神・淡路大あり、一挙に、様々なNPOをつないで、防災まちづくりを進めようというアクティブな「防災まちづくりの会」が発足することとなった。</p>	
<p>活動体制</p>	<p>様々なNPOや市民活動グループのメンバーが参加して、「ひらつか防災まちづくりの会」が形づくられた。防災に取り組んでいるグループは各々独立したやり方でやりたいことをやり、仲間が応援するという緩い連携の中で、活動を行っている。</p>	<p>ひらつか防災まちづくりの会とは？</p>
<p>取り組み</p>	<p>■体験者の講演</p>	<p>いま私たちにできる事は？ 防災対策まちあるき</p>

目次

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■防災訓練に参加する

事例：大岩二丁目自主防災会（静岡県静岡市）


活動対象	<p>静岡県静岡市大岩二丁目は、昭和30年代後半から急速に宅地化が進んだ地域であり、閑静な住宅地となっている。</p> <p>830世帯、558名の防災委員を有する比較的規模の大きい自主防災組織である。</p>	
視点	<p>自主防災組織が、自らの創意工夫によって、日常のボランティア活動と、防災活動を注目すべき事例である。</p>	
経緯	<p>町内の世帯数が多く、災害に強いまちづくりを進めるためにも、協力する精神が多く取り入れるなど、コミュニケーションの場を広げていく、取り組みを行っていた。</p> <p>東海地震対策については、自主防災会の結成当初により積極的に取り組んでいたが、阪防災組織にボランティア組織の要素を加えた独自の組織づくりを進めている。</p>	
取り組みの概要	<p>■地域安全の会（自警団）を結成</p> <p>災害時における初期火災の発見、日ごろの盗難防止などを目的に、住民の力で『地域安全の会』を結成し、3グループに分かれて活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震対策 市防災課との連携、各種アンケート、調査の実施など ・ 防犯対策 交番との連携、悪質な訪問販売等の情報連絡、自転車盗難防止など ・ 防火対策 消防署との連携、町内巡回、防災週間における広報など 	

目次

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■勤め先からの帰宅困難問題について調べる

事例：大丸有地区

<p>対象地区</p>	<p>千代田区大手町、丸の内、有楽町</p> <p>面積約119.1ha、従業員数21.4万人</p> <p>日本のGDPの20%の企業本社が集中する地区であり、地区の機能更新が進められている。</p>	
<p>経緯</p>	<p>昭和63年に作られた大丸有地区再開発推進協議会のまちづくり検討会の中で、「防災」について検討を行い、これが、「防災隣組」といった活動に結実していた。</p>	
<p>活動体制</p>	<p>大丸有協議会の中に安全・安心まちづくり研究会を作り、それと連携するように、地域協力会のコア委員会と防災隣組として機能する地域協力会を設け（平成16年1月）、町会などの立場で参加する仕組みとなっている。</p>	<p>推進体制（地域協力会 = 防災隣組）</p> 

目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何？
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

■地域の仲間と住宅の耐震化を進める

事例：平塚地区

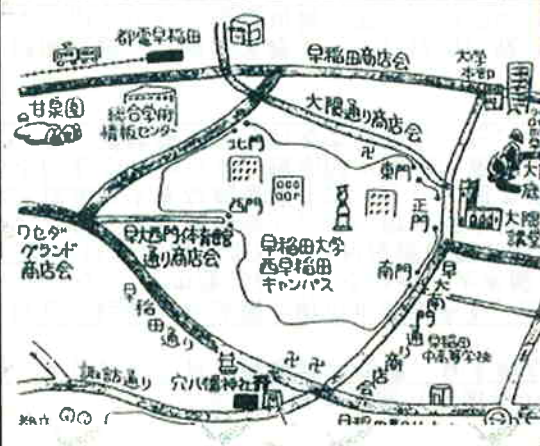
<p>対象地区</p>	<p>人口25.6万人、面積67.88 km²の、神奈川県南部近郊都市。</p> <p>市域南部の花水地区（市域の1/10程の面積）での活動が中心となっている。</p>	
<p>経緯</p>	<p>元々、福祉活動、コミュニティ活動が盛んでNPOとなったまちづくりグループ。震災の時はどうなるのかという不安を住民が持っていたところ、阪神・淡路大り、一挙に、様々なNPOをつないで、防災まちづくりを進めようというアクション「防災まちづくりの会」が発足することとなった。</p>	
<p>活動体制</p>	<p>様々なNPOや市民活動グループのメンバーが参加して、「ひらつか防災まちづくりの会」が形づくられた。防災に取り組んでいるグループは各々独立したやり方でやりたいことをやり、仲間が応援するという緩い連携の中で、活動を行っている。</p>	<p>ひらつか防災まちづくりの会とは？</p> 
<p>取り組みの概要</p>	<p>■体験者の講演</p> <p>「体験者からできる事は？」 防災を考える会</p> <p>「防災経験者から学ぶ」 花水防災ボランティア</p>	

目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何？
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

■災害時要援護者との交流、支援

事例：早稲田商店街

対象地区	新宿区 早稲田大学周辺連合商店会（7 商店会、近隣型 480 店）	 <p>図 早稲田大学周辺連合商店会</p>
------	--------------------------------------	--


経緯
 エコステーションなど、環境問題への取り組みから始め、自分たちの身の周りにある自分たちがやりやすいやり方でやっていくことで動ける、そんな実感を持ち、教育のF者の問題、地域の安心・安全の問題、留学生の方や地域にお住まいの各国の方たちと方など、いろいろな問題を自分たちにできるやり方で取り組んでいこうという活動を行った。その延長線上で、まちで暮らす人間でなければ出来ない震災対策の活動や、日本の仲間が互いに助け合う事業の必要性を感じ、防災まちづくりへの取り組みを行っている。

活動体制
 早稲田大学周辺連合商店会を中心に、企業、NPO等と連携し、防災まちづくり活動をする。
 また、「震災対策疎開プロジェクト」については、全国商店街震災対策連絡協議会？安井氏を中心に立ち上げ、群馬県東村、戸田市商店街連合会などともに、活動を行っ

取り組みの概要

- 利再来大明神
- リサイクルだけでなく、あらゆるものの再生をテーマに全国のまちをネットワークする試み
- 震災疎開パッケージ

平素からの人・物・情報の交流が





目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何？
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

防災施設づくり

事例：大水崎自主防災組織（和歌山県串本町）


活動対象	<p>和歌山県串本町は、本州の紀伊半島の最南端の潮岬にある町で、風光明媚な町である。</p> <p>三方向を海に囲まれ、津波被害を受けやすいところから、避難路整備の取り組みが始まった。</p>	
視点	<p>大水崎地区の位置（画面左の奥尻島町長の講演をきっかけに危機感を持った住民が、自ら避難路を整備、自主的になっていった注目すべき事例である。</p>	
経緯	<p>潮岬が太平洋に突出し、紀伊半島と低い砂丘で結ばれた地域に町の中心があり、三の狭い崖下の土地を埋め立て、街を造成している。その埋立地にあるのが、大水崎1年）7月、北海道南西沖地震が発生し、奥尻島をはじめ渡島半島各地が津波に襲われたような地形からこの災害を人ごとではないと思った町民は多く、串本町青年会議所会を翌年12月に開催した。この講演を聴き、住民は大きな危機感を持った。土地のほ下で津波の被害をまともに受ける危険があるにもかかわらず、短期間で高台に避難である。このような経緯から、住民の発意により、避難路が作られることになった。</p>	
取組みの概要	<p>■津波避難マップの作成</p> <p>大水崎地区の地区組織「大水崎区」では講演会后、「津波避難マップ」作成に取り定場所の総合運動公園まで遠いこと、道はないが、近くて避難可能な高台まで歩いてがあること、そこに行くまで交差点も踏切もなく、交通規制がない限り危険なことな崎区では、串本町役場へ「避難路整備」を求めて要望に行った。町としては要望個所いのでJRと折衝したが、承諾を得られず、避難路整備の要望は踏切がないのではとなかった。</p> 	

目次

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■防災情報を幅広く共有する

事例4：目白地区

<p>対象地区</p>	<p>新宿区、豊島区</p> <p>目白駅を中心に、目白通りを軸として東西約2km、南北の幅概ね1kmの区域。</p> <p>目白通り沿いの一部を除き、大半は住宅地である。</p>	 <p>図 対象地区（学習院大学は含まれていない）</p>
<p>経緯</p>	<p>平成元年に目白駅周辺地区整備推進協議会ができ、目白駅前の再開事業、駅前広場整備などについて協議を行う場となった。この協議会の活動をサポートとし、提案活動を行っていくため、専門家を中心に「目白まちづくり倶楽部」が設立され、まちづくり活動を行っていた。再開が一段落後、目白通り整備も含め、「防災」というテーマで当該地区の将来を考える活動に入っていった。</p>	
<p>活動体制</p>	<p>「目白駅周辺地区整備推進協議会」の中で「目白まちづくり倶楽部」がワーキンググループとして活動。防犯を考える「目白セキュリティ4・5」が立ち上がった所に委員会が設立され東京都、豊島区、新宿区などとの協力関係ができた。</p>	 <p>図 設立された委員会・クラブ等の活動の組織</p>

目次

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■子供たちとともに防災について調べ、発表す

事例：市民防災まちづくり学校（国分寺市）

<p>活動対象</p>	<p>国分寺市は、面積約11.48km²、人口約11万人、東京都西部の多摩地域にある住宅都市であり、市民防災まちづくり学校は、国分寺市民を対象に活動を行っている。</p>	 <p>国分寺市</p>
<p>事例研究の視点 経緯</p>	<p>防災まちづくり教育を行ってきた先駆的な地方自治体であり、地域におけるのあり方に示唆を与える事例である。</p> <p>1978（昭和53）年、国分寺市災害危険災害区域図を全戸配布、同時に、防度の講座や行事を実施。1980（昭和55）年講座を受講した市民を防災の担い民「防災推進委員制度」を創設。以降、講義の内容を開発指導や地区計画制度の、広げつつ、制度を継続的に実施。</p> <p>1991（平成3）年には、住民との共同調査による「防災地区カルテ」を発行「市民防災まちづくり学校」と名称を変更し、現在に至る。</p> <p>また、1981（昭和56）年以降、自治会毎に、協定を結んで「防災まちづくり」を結んでから3年間、防災まちづくりの専門家（コンサルタント）を派遣した防災まちづくり活動を進めている。（7地区協定締結済み）</p>	
<p>取組みの</p>	<p>■防災診断地図の作成と提供</p>	

目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何？
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

■ 災 害 別

想定する災害による分類

防災まちづくりの支援内容の検討においては、想定する災害によって対策が異なり、それに対応する支援方策も異なることから、災害によるパターン分けを行なう。

地震対策（建物倒壊・耐震化対策、住民対応力の強化、帰宅困難者対策、津波対策）、火山対策（避難対策、住民対応力の強化）、水害対策（住民対応力の強化）、に分類する。

想定する災害の特徴による分類

想定する災害の分類	防災まちづくりの例
地震対策	建物倒壊・不燃化対策（市街地整備など）
	住民対応力の強化（啓発活動、情報共有など）
	<u>帰宅困難者対策</u>
	<u>津波対策</u> （避難路整備など）
火山対策	<u>避難対策</u>
	住民対応力の強化（啓発活動、情報共有など）
水害対策	住民対応力の強化（啓発活動、情報共有など）

目 次

● [TOP](#)

● [趣旨](#)

● [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)

● [防災まちづくりとは何？](#)

● [防災まちづくり早分かり](#)

● [事例紹介](#)

■ [災害別](#)

■ [地域特性別](#)

■ [分野別](#)

■ [主体別](#)

● [防災まちづくり支援制度](#)

● [防災まちづくり案内処](#)

● [防災まちづくり広場](#)

● [防災まちづくり知恵袋](#)

● [問合せ先](#)

● [リンク](#)

■ 災 害 別

目 次

事例：大丸有地区

<p>対象地区</p> <p>千代田区大手町、丸の内、有楽町</p> <p>面積約119.1ha、従業者数21.4万人</p> <p>日本のGDPの20%の企業本社が集中する地区であり、地区の機能更新が進められている。</p>	 <p>図 大丸有地区における再開発事業等の計画</p>
<p>経緯</p> <p>昭和63年に作られた大丸有地区再開発推進協議会のまちづくり検討会の中で、「防災」について検討を行い、これが、「防災隣組」といった活動に結実していた。</p>	 <p>図 大丸有協議会の枠組み（赤枠内で防災について検討）</p>
<p>活動体制</p> <p>大丸有協議会の中に安全・安心まちづくり研究会を作り、それと連携するように、地域協力会のコア委員会と防災隣組として機能する地域協力会を設け（平成16年1月）、町会などの立場で参加する仕組みとなっている。</p>	<p>推進体制（地域協力会 = 防災隣組）</p> 

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■地域特性格

1) 地域特性格の分類

過疎地域から大丸有地区のような業務集積地区まで全国には様々な市街地がある。当然、市街地の特性に応じて、防災まちづくりの課題が変わることから市街地の特性に応じた分類を行う。

また、市街地の特性の違いを明確に示すため、大都市圏と地方都市圏を分けて整理する。

表1 市街地特性による分類

市街地の分類	大都市圏 注1)	地方都市圏 注2)
都市より広域的な地域	NPO法人都市防災研究 NPO法人東京いのちのポータルサイト 帰宅難民の会 NPO法人ユニバーサルデザイン・ステップ 横浜市建築士会 NPO法人日本防災士機構 (全国的な拡がり)	NPO法人豊前の国建 災害ボランティア NPO法人ながおか生 静岡県建築士会
業務系市街地	東京駅周辺防災隣組(千代田区) 旧居留地連絡協議会防災委員会(神戸市)	なし
商業系・商住複合市街地	早稲田商店街(新宿区) 目黒まちづくり倶楽部(豊島区) 戸越1・2丁目地区まちづくり懇談会(品川区) ぼうけん会(北区) 清水安全・安心まちづくり実行委員会(京都市) 春日住民福祉協議会(京都市)	高知NPO(高知県奈半)
住宅系	目黒まちづくり倶楽部(豊島区) 平塚防災まちづくりの会(平塚市) 江東区の水辺に親しむ会(江東区) 練馬区防災住民組織心のあかりを灯す会(練馬区) 一寺言問を防災のまちにする会(墨田区) 大和地区「防災を考えるつどい」(愛知県西枇杷島町) 市民防災まちづくり(同八木市)	大水崎自主防災会(大岩二丁目自主防 八代環境パトロー 有珠山噴火・避難者 安全・安心まちづ 市) 桜島友の会(鹿児島 水安寺の会(徳島市)

目次

- TOP
- 趣旨
- 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
- 防災まちづくりとは何?
- 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
- 災害別
 - 地域特性格
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

■地域特性別

事例1：特定非営利活動法人 都市防災研究会

活動対象	市民の防災意識を高め、防災に関する知識の普及・啓発を目指し神奈川県を中心に活動が進められている。
事例研究の視点	様々な専門家や企業をネットワークし、防災まちづくり活動を行っているNPOであり、全国的な組織としての展開も始まっている、インタミディアリーの要素を持つNPOとして注目される。
経緯	都市防災研究会は、元関東学院大学学長故藤本一郎氏が構想した横浜防災都市懇話会を発展的に継承し、1997(平成9)年、設立された研究会である。 防災の専門家や意識の高い企業を中心に、書籍の出版や、講習会の開催など主に防災意識の普及啓発や、防災技術の発信などを行っている。2002年横浜市市民活動共同オフィスへの入居を経て、2004年NPO法人化した。また、併せて、神戸支部が開設された。
活動体制	代表理事脇口育雄氏を中心に、10名の理事、29名の幹事(内、法人会員1社)、の体制で運営を行っている。 会員数は、247名で、神奈川県西部に集中している。
取り組みの概要	活動は大きく分けて、イベント関連、研究活動、出版の3本柱で行われている。平成14～15年度の活動では以下のような取り組みがなされた。 ■イベント関連 <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災と福祉のまちづくりセミナー <p>横浜市と協力し、地域防災拠点をどう運営するか、三日間に渡る講習会を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東大地震80周年記念パネルディスカッション <p>関東大震災から80年経過したことを踏まえ、中田横浜市長の基調講演とパネルディスカッションを実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・防犯・福祉のまちづくりフォーラム

目次

●TOP

●趣旨

●防災まちづくりのポータルサイトの使い方

●[防災まちづくりとは何?](#)

●[防災まちづくり早分かり](#)

●事例紹介

- 災害別
- 地域特性別
- 分野別
- 主体別

●[防災まちづくり支援制度](#)

●[防災まちづくり案内処](#)

●[防災まちづくり広場](#)

●[防災まちづくり知恵袋](#)

●問合せ先

●[リンク](#)

■分野別

防災まちづくりの内容による分類

防災情報提供、資格認定、防災技術の啓発を行うなど地域に限定されない都市を超えた広域的防災まちづくり活動と、地区の危険度把握、防災施設の設置・維持管理など地域に限定した防災まちづくり活動とに分類する。

防災まちづくりの内容による分類

防災まちづくり活動の分類	防災まちづくり活動の例	
都市を超えた広域的防災まちづくり活動	啓発の普及・啓発	シンポジウム、講習会、防災関連技術の展示
	防災情報の共有・発信	ポータルサイトの構築、BLOGによる情報共有、リンク集の運営 等
	防災ボランティアのネットワーク化、リーダー育成	防災まちづくりリーダーやコーディネータ育成、ボランティア団体、企業とのネットワークづくり
	過疎地域での広域連携による災害時要援護者の支援	行政域を超えた合同訓練、過疎地高齢者の支援
	専門家ネットワークによる技術支援	専門家による技術支援（耐震診断研修、相談、フットの提供 等）
地区～都市レベルでの防災まちづくり活動	地区の現状（危険度）把握	地域危険度を把握する調査の実施（街歩き、練、危険場所を示す地区の作成 など）
	地区防災計画の検討・策定	地区防災計画の検討・策定
	防災施設の設置・維持管理	防災機能を持つ施設の設置（路地尊、安全緑路 など）
	子供の教育・啓発活動	防災教育（防災キャンプ、総合学習の活用、災カルタ作成 など）
	災害時要援護者の支援	地域の見守り活動（お年寄りのお宅訪問、見ど）

目次

- [TOP](#)
- [趣言](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
- [災害別](#)
 - [地域特性別](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■分野別

事例：市民防災まちづくり学校（国分寺市）

活動対象	<p>国分寺市は、面積約11.48km²、人口約11万人、東京都西部の多摩地域にある住宅都市であり、市民防災まちづくり学校は、国分寺市民を対象に活動を行っている。</p>	 <p>国分寺市</p>
事例研究の視点 経緯	<p>防災まちづくり教育を行ってきた先駆的な地方自治体であり、地域におけるのあり方に示唆を与える事例である。</p> <p>1978（昭和53）年、国分寺市災害危険災害区域図を全戸配布、同時に、防度の講座や行事を実施。1980（昭和55）年講座を受講した市民を防災の担い民「防災推進委員制度」を創設。以降、講義の内容を開発指導や地区計画制度の、広げつつ、制度を継続的に実施。</p> <p>1991（平成3）年には、住民との共同調査による「防災地区カルテ」を発行「市民防災まちづくり学校」と名称を変更し、現在に至る。</p> <p>また、1981（昭和56）年以降、自治会毎に、協定を結んで「防災まちづくり」を結んでから3年間、防災まちづくりの専門家（コンサルタント）を派遣した防災まちづくり活動を進めている。（7地区協定締結済み）</p>	
取組みの	<p>■防災診断地図の作成と提供</p>	

目次

- [TOP](#)
- [趣旨](#)
- [防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)
- [防災まちづくりとは何？](#)
- [防災まちづくり早分かり](#)
- [事例紹介](#)
 - [災害別](#)
 - [地域特性格](#)
 - [分野別](#)
 - [主体別](#)
- [防災まちづくり支援制度](#)
- [防災まちづくり案内処](#)
- [防災まちづくり広場](#)
- [防災まちづくり知恵袋](#)
- [問合せ先](#)
- [リンク](#)

■主体別

1) 主体による分類

防災まちづくりの支援対象となる活動主体によっては、支援方策が異なることから、防災まちづくりの主体のパターン分けを行なう。

地域防災計画などに基づく住民防災組織、商工会議所、学校などの公益的組織など、既存の組織をベースに活動している主体と、NPO法人等、地域住民でなくても参加可能な任意団体などの主体とに分類する。また、大丸有地区のように、企業が防災まちづくりを担うケースが出てきていることに鑑み、NPO法人や任意団体については、企業系と住民系に分類する。

主体の特徴による分類

防災まちづくり主体の分類		組織の例
NPO、 任意団体	企業系	企業町内会 など
	住民系	まちづくりNPO など
既往の 地域組織	商工系	商店街振興組合など
	住民防災組織	自主防災会、自治会など (自主防災組織が連合するケースも含む)
	その他(消防署、学校等)	小中学校、高校、大学等、公益組織(専門家組織も含む)

目次

●TOP

●趣旨

●防災まちづくりのポータルサイトの使い方

●[防災まちづくりとは何?](#)

●[防災まちづくり早分かり](#)

●事例紹介

■災害別

■地域特性別

■分野別

■**主体別**

●[防災まちづくり支援制度](#)

●[防災まちづくり案内処](#)

●[防災まちづくり広場](#)

●[防災まちづくり知恵袋](#)

●問合せ先

●[リンク](#)

■主体別

事例：大岩二丁目自主防災会（静岡県静岡市）

活動対象	<p>静岡県静岡市大岩二丁目は、昭和30年代後半から急速に宅地化が進んだ地域であり、閑静な住宅地となっている。</p> <p>830世帯、558名の防災委員を有する比較的規模の大きい自主防災組織である。</p>	
視点経緯	<p>自主防災組織が、自らの創意工夫によって、日常のボランティア活動と、防災活動を注目すべき事例である。</p> <p>市内の世帯数が多く、災害に強いまちづくりを進めるためにも、協力する精神が多く取り入れるなど、コミュニケーションの場を広げていく、取り組みを行っていた。</p> <p>東海地震対策については、自主防災会の結成当初により積極的に取り組んでいたが、阪防災組織にボランティア組織の要素を加えた独自の組織づくりを進めている。</p>	
取り組みの概要	<p>■地域安全の会（自警団）を結成</p> <p>災害時における初期火災の発見、日ごろの盗難防止などを目的に、住民の力で地域安全の会』を結成し、3グループに分かれて活動を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震対策 市防災課との連携、各種アンケート、調査の実施など ・ 防犯対策 交番との連携、悪質な訪問販売等の情報連絡、自転車盗難防止など ・ 防火対策 消防署との連携、町内巡回、防災週間における広報など 	
置		

目次

- TOP
- 趣旨
 - 防災まちづくりのポータルサイトの使い方
 - 防災まちづくりとは何？
 - 防災まちづくり早分かり
- 事例紹介
 - 災害別
 - 地域特性別
 - 分野別
 - 主体別
- 防災まちづくり支援制度
- 防災まちづくり案内処
- 防災まちづくり広場
- 防災まちづくり知恵袋
- 問合せ先
- リンク

■防災まちづくり支援制度

具体的な適用例含め、防災まちづくり支援制度を整理し、
何に役立つ制度なのかが分かるように構成

○支援対象

個人、任意団体、NPO、地方自治体

○支援内容

相談、人材派遣、事務局機能支援、技術支援、助成、融資

○支援適用事例の紹介

適応対象、地域対象

[制度活用ポイントはこちら](#)

目次

●[TOP](#)

●[趣旨](#)

●[防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)

●[防災まちづくりとは何？](#)

●[防災まちづくり早分かり](#)

●事例紹介

■[災害別](#)

■[地域特性別](#)

■[分野別](#)

■[主体別](#)

●[防災まちづくり支援制度](#)

●[防災まちづくり案内処](#)

●[防災まちづくり広場](#)

●[防災まちづくり知恵袋](#)

●問合せ先

●[リンク](#)



■防災まちづくり案内処

○身の回りの危険に備えたい

[家の耐震性をチェックしたい](#)

街の危険場所を知りたい、調べたい

○役に立つ技術を知りたい

防災グッズ、施工技術 など

○防災まちづくりの支援を受けたい

[防災まちづくり支援制度はこちら](#)

○専門化の応援を受けたい

目次

●[TOP](#)

●[趣旨](#)

●[防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)

●[防災まちづくりとは何?](#)

●[防災まちづくり早分かり](#)

●事例紹介

■[災害別](#)

■[地域特性別](#)

■[分野別](#)

■[主体別](#)

●[防災まちづくり支援制度](#)

●[防災まちづくり案内処](#)

●[防災まちづくり広場](#)

●[防災まちづくり知恵袋](#)

●問合せ先

●[リンク](#)



■防災まちづくり広場

○テーマ別防災まちづくり掲示板

○質問コーナー

○交流会

目次

●[TOP](#)

●[趣旨](#)

●[防災まちづくりのポータルサイトの使い方](#)

●[防災まちづくりとは何？](#)

●[防災まちづくり早分かり](#)

●[事例紹介](#)

■[災害別](#)

■[地域特性別](#)

■[分野別](#)

■[主体別](#)

●[防災まちづくり支援制度](#)

●[防災まちづくり案内処](#)

●[防災まちづくり広場](#)

●[防災まちづくり知恵袋](#)

●[問合せ先](#)

●[リンク](#)



■ 紙芝居 (稲村の火)

■ 防災政策の変遷

■ 市街地の防災性能の推進

■ 防災思想の変遷と提言

目次

● TOP

● 趣旨

● 防災まちづくりのポータルサイトの使い方

● 防災まちづくりとは何?

● 防災まちづくり早分かり

● 事例紹介

- 災害別
- 地域特性別
- 分野別
- 主体別

● 防災まちづくり支援制度

● 防災まちづくり案内処

● 防災まちづくり広場

● 防災まちづくり知恵袋

● 問合せ先

● リンク

防災まちづくりプロジェクトのその後

～事例：安全・安心まちづくり女性フォーラム～

)「その後」については、関係者・団体へ聞き取りによるものですが、短期間の略式調査であるのでそれのある可能性があり、関係者にご迷惑がかかる恐れがあるため、当資料の取り扱いにはご注意願います。

《 》安全・安心まちづくり女性フォーラムの概要

実施時期：平成9～11年度

実施主体：「安全・安心まちづくり女性フォーラム」

プロジェクト内容

【趣旨】

- ・ 阪神・淡路大震災から5年、人々の防災意識が薄れていくことへの危機感を背景に、市民が自分のまちの安全・安心について主体的に考え、行動を起こすことを誘発するため、地域により密着している場合の多い女性を中心に、防災まちづくりの種となる活動を全国各地で起こす。また、地域の活動を相互に学びあい、地域連携の契機をつくる。

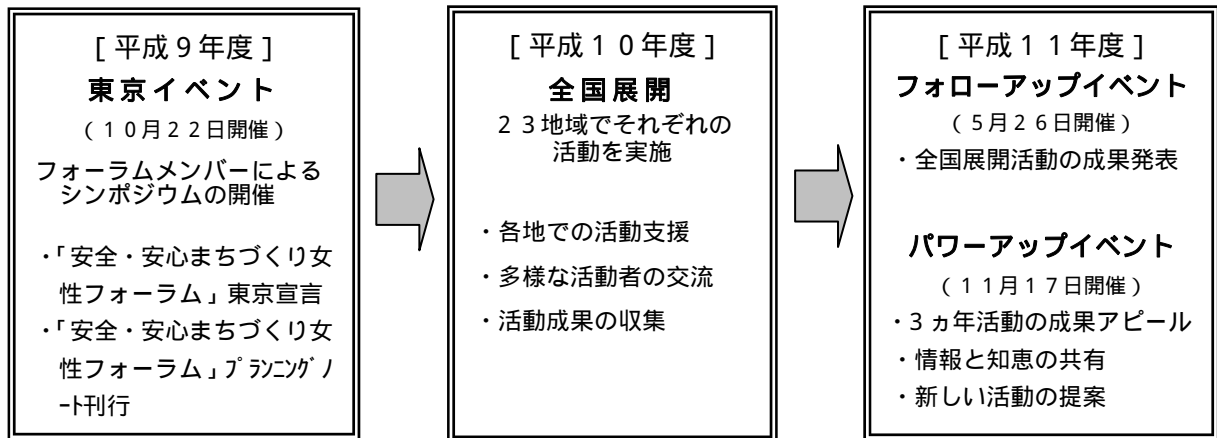
【活動内容】

- ・ プロジェクト推進母体「安全・安心まちづくり女性フォーラム」は上記の問題意識と目的のもと、各界の発起人28名により設立された(座長：元東京都副知事金平輝子氏)。実働部隊として女性を中心とする官民11名の実行委員会を設置、活動全体の方向付け・取りまとめのほか、地域の要請に応じて委員派遣等の支援や助言、ニュースレターによる各地の活動紹介、活動のビデオ作成などを行なった。(発起人・実行委員は参考1参照)
- ・ エントリーした全国23の地域・団体(自治体、NPO団体、住民グループなど)には、女性を中心とした市民による実行委員会を組織すること、安全・安心に関わるまちづくり活動を自主的に企画、実施することを条件に、一律50万円を助成(*単年度のみ。自治体主導の地域は助成なし)。
- ・ 平成10年度には各地で「まちの安全・安心」をテーマに、それぞれ地域の課題を踏まえ、まち探検、ワークショップ、調査研究、講演会、シンポジウム、展示など、自由な形での活動が実施され、参加者は全地域で約13,000人にのぼった。
(各地の主体・活動内容は参考2参照)
- ・ 平成11年度には東京に各地域の実行委員会メンバーを集め、イベント形式による各地の活動発表(フォローアップイベント)さらに、新しい防災まちづくり活動の視点、方法の提案(パワーアップイベント)を行なった。
- ・ なお、これらの活動は協力団体である日本経済新聞社により特集記事「都市・明日の姿を探る」として紹介された(計4回、13面)。このほか各地の活動は地元新聞社、TVなどによる報道が行なわれた。

成果物等

- ・ 各年次報告書、各地の活動報告書(15地域：作成義務なし)
- ・ プランニングノート(安全・安心なまちを市民がつくるための手引きノート)
- ・ ビデオ(3種。東京での活動発表などの記録。実施地域・関係者に配布、一般販売)
- ・ ホームページ及びサロン開設(継続中(財)都市防災研究所内)

図 「安全・安心まちづくり女性フォーラム」の3年間の活動



《参考1》安全・安心まちづくり女性フォーラム発起人・実行委員

発起人		実行委員	
金平輝子 [座長]	(元東京都副知事	森下慶子 [実行委員長]	イベントプロデューサー
有馬真喜子	ジャーナリスト、(財)横浜市女性協会理事長	伊藤明子	建設省大臣官房監察官
安藤忠雄	建築家	稲垣道子	都市プランナー
池田桂子	弁護士	延藤安弘	千葉大学工学部都市環境システム学科教授
伊藤滋	慶應義塾大学大学院教授	桶田和子	帝京短期大学非常勤講師
延藤安弘	千葉大学工学部都市環境システム学科教授	熊谷博子	映像ジャーナリスト
大熊由紀子	ジャーナリスト	児玉桂子	日本社会事業大学社会福祉学部教授
小幡純子	上智大学法学部教授	重川希志依	(財)都市防災研究所研究部長
北村春江	芦屋市長	永島恵子	東京都北部住宅建設事務所建設課長
熊谷博子	映像ジャーナリスト	正木啓子	大阪府土木部中部公園事務所長
児玉桂子	日本社会事業大学社会福祉学部教授	松村みち子	まちづくりコンサルタント(都市交通問題)
小西聖子	武蔵野女子大学人間関係学部教授		
佐々木かをり	女性ネットワーク主宰		
里中満智子	漫画家		
残間里江子	メディアプロデューサー、エッセイスト		
高島順子	日本労働組合総連合会総合女性局長		
高野悦子	エッセイスト、岩波ホール総支配人		
西谷剛	横浜国立大学大学院教授		
野中ともよ	ジャーナリスト		
堀田力	弁護士、(財)さわやか福祉財団理事長		
長谷川逸子	建築家		
林望	作家、東京芸術大学音楽学部助教授		
藤井経三郎	コミュニケーションプランナー		
藤本義一	作家		
森下慶子	イベントプロデューサー		
森野美德	ジャーナリスト		
森まゆみ	作家、「谷中・根津・千駄木」(タウン誌)編集人		
吉村秀實	ジャーナリスト		

* 役職等は平成12年3月末現在

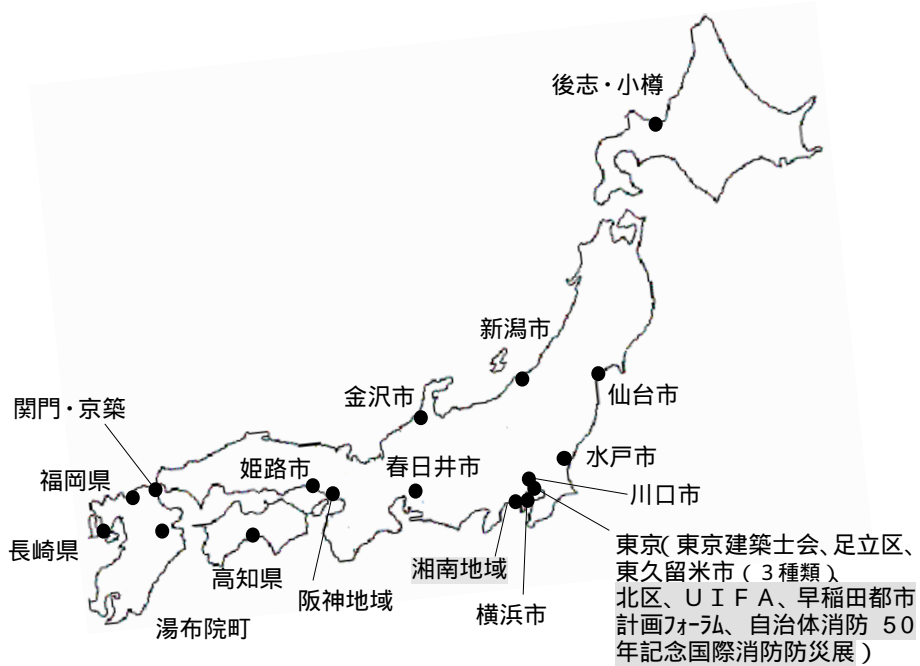
《 》各地域の現在の活動状況

(注：簡易調査による・詳細は参考2参照)

活動継続状況		地域数	名称(当時の呼称)
継続	主体・活動内容ともほぼ同様に継続発展	5	春日井市、姫路市、新潟市(*)、 関門・京築地域、湯布院町
	主体存続 (現在別テーマで活動中)	「防災まちづくり」を実施 する可能性がある 2	後志・小樽、川口市
継続なし	主体・活動内容とも存続なし	9	仙台市、東京都足立区、横浜市西区、 金沢市、阪神地域、高知県、福岡県、 長崎県、東久留米市(市民団体等)
その他	当プロジェクトを契機に、新たな主体が防 災まちづくり活動を開始	3	東久留米市(市)、東京都北区、 U I F A Japon

(*新潟市の実行委員会は本年度末活動終了)

図 2 3 地域の位置



(着色名称は1回限りの活動)

《参考2》地域の活動内容と現状

活動が同じ主体により継続している地域

	中心主体	実施内容		平成 11 年度の自主活動	現在の活動状況
		主な安全・安心まちづくりのテーマ			
新潟市	市整備計画課（+ 婦人会、建築やまちづくりに関わる女性団体の有志による実行委員会）	リレートーク、パネルディスカッション（地域フォーラム4回、連動フォーラム2回） （緑化フェアなどに企画相乗）	災害防災（震災）、環境景観、福祉高齢化、コミュニティ	タウンウォッチング実施	・当時採択された「新潟101宣言」のもと、「水の都にいがた安全・安心まちづくり女性フォーラム」として、公園の安全性調査等を実施 ・平成15年度は「安全・安心」に関する身近なテーマについての5周年イベントを開催 ・広報誌発行 ・平成16年度を持って実行委員会解散（メンバー多忙により一堂に会した活動はここで終了。各メンバーによる地域での防災まちづくり活動は継続）
春日井市	市総務部市民安全課、春日井市安全なまちづくり協議会、「春日井安全アカデミー」卒業生	調査研究、部会発表、パネルディスカッション	災害防災（交通事故）、環境景観、コミュニティ	交通安全等の継続調査、第2回春日井安全・安心まちづくり女性フォーラムを開催し、成果発表	・「春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会」は「交通安全」「生活安全」「防災」「環境」の4部会活動が、市全域を対象に活発に活動中 ・市内全小学校区で作成した「安全マップ」などの成果物は市が整理して印刷、地域に配布するなど活用 ・小学校の総合学習で安全意識の啓発活動を実施（H14年） ・市・警察・小学校などとの連携を背景に、活発な活動が続いている
姫路市	市都市局計画部（+ 市広報誌の公募に応じた女性建築士等による実行委員会）	調査研究、講演、部会報告、パネルディスカッション	防犯、環境景観、福祉高齢化	公園チェックリスト作成	・「安全・安心まちづくり姫路委員会」は「まちづくり安・安」に名称変更（同じメンバー）。 ・公園調査などを、児童センター、母親クラブなどと連携して、継続中 ・全国道づくり・地域づくりフォーラムなど全国レベルの活動で発表などを行なっている
関門・京築	ネットワークODA（*当プロジェクトを契機につくられた、北九州～下関の市民ネットワーク組織）	リレーコメント、シンポジウム （ランドスケープ98への企画相乗）	災害防災、環境景観、インターネットの功罪 etc.	例会、ニューズペーパー発行を通して安全・安心をテーマとした活動を具体化	・地域の情報媒体の少ない北九州で、コミュニティFMの立ち上げに関与。防災を含むまちづくりに関わる人や活動を紹介する番組を持っている ・30～40代の働くシングル女性のネットワークづくりなど、安心して暮らせるためのネットワーク活動をすすめている ・「ネットワークDODAI」は存続。ゆるやかなネットワークとして、何かを行なう場合には協力し合える状況がある
湯布院町	住民グループ（ゆふいんfamily等）	ワークショップ、シンポジウム	災害防災、環境景観、子育て、温泉、ムラづくり	当プロジェクトでできた女性グループの横の連携によりシンポジウム等を開催	・子育て中の女性グループなど、当プロジェクトを契機に作られた市民グループが「子どもたちが安心して暮らせるまちをつくろう」をテーマに、様々な安全・安心まちづくり活動を継続中

主体存続、活動テーマは現在別分野に移行（今後防災まちづくり活動の可能性もあり）

	中心主体	実施内容	平成 11 年度の自主活動	現在の活動状況
		主な安全・安心まちづくりのテーマ		
水戸市	水戸女性会議 県更正保護婦人連盟、県婦人会館友の会、大学婦人協会茨城支部	講演、分科会、視察会、シンポジウム ----- 災害防災(水害、交通事故)、防犯、環境、子育て、福祉高齢化、原子力施設の安全、自治会活動	・JOC臨界事故発生に際し、科学技術庁等へ「原子力施設の安全確保」申入書提出 ・「日本女性会議 2001 みた」にてまちづくり分科会 ・まちウォッチングを継続	・従来広範なテーマのもと、各団体は必要に応じ連携して活動してきたが、当プロジェクト以来「まちづくり」もテーマの一つとなり、交通安全や犯罪がテーマの勉強会等を実施した ・防災まちづくりへの関心は高く、災害などがあれば、支援活動等は組織連携で対応しており、今後防災まちづくりをテーマとすることはありうる
東京建築士会	(社)東京建築士会女性建築士委員会	調査研究、シンポジウム(学習会・一般公開シンポジウムのテーマとして) ----- 災害防災(木造住宅密集市街地対策)、福祉高齢化		・通常活動として、まちづくりの様々なテーマについて実態調査、シンポジウムを毎年開催している ・現在、防災をテーマとした調査研究を企画中

主体存続、活動テーマは別分野に移行（防災まちづくり分野は当面予定なし）

	中心主体	実施内容	平成 11 年度の自主活動	現在の活動状況
		主な安全・安心まちづくりのテーマ		
後志・小樽	(社)小樽青年会議所 + F R A U 倶 楽 部 (*) + 小樽市職員有志 (*はこれを機会につくられた市民団体)	まちなみ視察会、講演・パネルディスカッション ----- 災害防災、環境景観	・F R A U 倶 楽 部 が主体的に活動を開始。インターネットの活用を模索、有珠山噴火時には支援活動を全道に呼びかけ、成果を挙げた	・F R A U 倶 楽 部 は「エコマネー」を実施するものと、景観まちづくりなどを行なうものに分かれ活動中 ・いずれも「防災」はテーマにない
川口市	市企画財政部総合政策課(+各種婦人団体選出の実行委員会)	展示、対話形式の講演会(市の女性関連イベントの平成10年度事業) ----- 災害防災(震災、水害)	市内女性団体により同様のフォーラム開催	・当実行委員会は「男女共同参画フォーラム実行委員会」となり、毎年「男女共同参画フォーラム」(市主催)を開催(中心メンバー、開催スタイルは同じ。防災系のテーマはない)

主体・活動とも存続なし

	中心主体	実施内容	平成 11 年度の自主活動	現在の活動状況
		主な安全・安心まちづくりのテーマ		
横浜市	西区役所(区女性管理職)	講演、パネルディスカッション 防犯、環境景観、子育て、福祉高齢化	区で「安全・安心まちづくりスタッフ」を公募、まち歩き実施	・区民のまち歩きは平成 11,12 年度で終了 ・区は「いえ・みちまち改善事業」(市民主導の防災まちづくり支援事業:h15~)として、問題地区についての同種の市民活動支援を開始
金沢市	市建設部都市計画課(+市民有志による実行委員会)	キャッチフレーズ公募、まちかど探検、ワークショップ、講演 災害防災、防犯、環境景観、子育て、福祉高齢化	路地、用水をテーマに子どもを巻き込んだイベント開催	・平成 11,12 年度までは市の予算措置のもと活動が継続していたが、平成 13 年度以降活動停止 ・実行委員会関係者らは、現在活動再開を模索中
高知県	県土木部都市計画課(+県建築士女性部会等女性団体選出の実行委員会)	調査研究、講演、リレートーク(こうち女性ネットワーク記念イベントの一環として実施) 災害防災(水害)	ハザードマップ作成協力、防災展示会開催	・参加メンバーが集まって行なう活動はその後なし
長崎県	県土木部住宅課(+県NPO関係者等による実行委員会)	講演、分科会 災害防災(火山災害、坂の街の防災まちづくり)、環境景観、子育て	「ながさき安全・安心まちづくりネットワーク」発足、記念イベント開催	・地域横断的な活動はなし ・従来それぞれの活動をしてきた団体等は各地域で活動を継続(島原、佐世保など)
仙台市	仙台都市総合研究機構	講演、ワークショップ、映画上映会 災害防災、防犯、環境景観、子育て、福祉高齢化、コミュニティ	タウンウォッチング開催	・平成 12 年度以降活動は停止
東京都足立区	足立区女性団体連合会	パネルディスカッション、調査研究、住民の提言発表 災害防災、既存地域団体のネットワーク化	パネルディスカッション開催	・防災まちづくりに関わる活動はその後行なっておらず、当面予定はない
福岡県	(社)日本青年会議所福岡ブロック協議会レディースフォーラム	ホームページでアンケート調査、分科会 災害防災、防犯、環境景観、子育て、福祉高齢化	県内他地域で安全・安心まちづくり女性フォーラム開催	・防災に関わる活動はその後行なっていない
東久留米市	生涯居住環境研究会	デンマーク国への研修と成果発表 福祉高齢化と安全な住まい・まち		・一通りの活動を終え研究会は休止
	日本社会事業大学児玉研究室	大学公開講座(8回)平成10年度公開講座として 福祉高齢化と安全な住まい・まち		・防災に関わるテーマの講義は以後行なっていない
阪神地域	住民有志	講演、リレートーク 災害防災、ボランティア、外国人との共生など	安全・安心まちづくり女性フォーラム阪神イベント~復興まちづくりセミナー開催	・関係者が一堂に会して行なう活動は平成 11 年度以降行なわれていない

当プロジェクトを契機に別の主体による防災まちづくり活動が開始されたものなど

	中心主体	実施内容	平成 11 年度の自主活動	現在の活動状況
		主な安全・安心まちづくりのテーマ		
東久留米市	市生活環境部 (*市女性職員中心に企画実施)	グループ討議 災害防災(震災)、市民・地域の自主防災活動	新たに3箇所自主防災組織結成	・市民有志が自主防災組織結成を呼びかけ、「防災まちづくり学校」を開始(啓蒙活動。市の委託事業化)
東京都北区	(財)北区まちづくり公社	講演会 (公社による定期まちづくり講演会の一環として) 女性リーダーによるまちづくりの視点	(*1回限りで実施され、継続想定はなかった) 実施後、女性問題に関わる市民グループがまちづくり活動への参画を求めてきたため、公社は連携を検討	・平成 13 年度公社主催のまちづくりフォーラムに「北区女性のネットワークまちづくりグループ」が参加。翌年公社との共催で「まちを遊ぼう in 東十条」を実施 ・その後も「こどもとまち」等のテーマで公社とグループとの連携活動が続いている
東京UIFA	都庁技術系女性職員有志	調査研究、UIFA 日本大会で論文発表(プランニングノート英語版作成) (UIFA 日本大会への参加) 災害防災、福祉高齢化、女性フォーラム活動の世界への発信	(*1回限りで実施)	・当時のメンバーはUIFA Japon(国際女性建築家会議日本支部)には殆ど残っていない ・UIFA Japon では現在、災害をテーマとした活動を検討中

一回限りの活動として開催され、当初から継続は想定されていないもの

	中心主体	実施内容	備考
		主な安全・安心まちづくりのテーマ	
湘南地域	住民有志(地域活動等を行う個人の集合体)	講演、パネルディスカッション 災害防災(津波含む)	(*1回限りで実施)
早稲田	早稲田大学都市計画関連学内グループ	パネルディスカッション 中心市街地活性化	早稲田大学まちづくりシンポジウムの一環 (*1回限りで実施)
国際消防	建設省住宅局建築物防災対策室	パネルディスカッション	自衛消防50年イベント(相乗) (*1回限りで実施)

《参考3》継続活動例：姫路市「まちづくり安・安」のこれまでの活動概要

(平成17年1月現在/姫路「まちづくり安・安」提供資料をもとに作成)

実施年月・場所		主な事業項目(内容)
安全・安心まちづくり女性フォーラム活動(*)	平成9年	(安全・安心まちづくり女性フォーラムが東京にて発足)
	平成10年6月	安全・安心まちづくり女性フォーラムひめじ委員会発足 16名のメンバーが防犯・環境・福祉の3部会に分かれ活動開始 市内一円にわたるアンケート調査、姫路城周辺及び市街地の夜の安全チェック
	平成11年1月	安全・安心まちづくり女性フォーラム開催(姫路キャスパホール) 基調講演：小出治東京大学教授 委員会活動報告 パネルディスカッション：伊藤明子(建設省)他
	〃 3月	安全・安心まちづくり女性フォーラムひめじ委員会活動報告書刊行
平成11年4月	安全・安心まちづくり姫路委員会再結成(8名) 活動テーマ『公園』 目的：子どもたちが安心して遊び、高齢者が憩い、また災害時には避難場所となる公園が、地域のコミュニティの中心となり、多世代交流の場となるよう、防犯・環境・福祉の視点から検証し、改めて公園のあり方を見直す	
(*)	6月(東京国際フォーラム)	安全・安心まちづくり女性フォーラム「フォローアップイベント」にて活動報告発表
	8月	第1回シロトピア公園利用者アンケート実施(平日：早朝～昼 夕方～晩)
	10月	第2回シロトピア公園利用者アンケート実施(休日：早朝～昼 夕方～晩)
平成12年3月		安全・安心まちづくり講演会(姫路市都市計画課主催)にて活動報告・展示
	6月	夜の安全・安心チェック(姫路駅～姫路城) 大手前通り・みゆき通り・おみぞ筋 綿町交番所(レディース交番)訪問
	8月 (シロトピア公園：参加者60名)	子供まちづくりイベント「シロトピア公園にみんな集まれ」開催 目的：通貨“あん・あん”を使用することにより、遊びや奉仕活動への参加を促し、ボランティアの体験学習を通して「自分たちのまち」への愛情を育む
	11月	「シロトピア公園にみんな集まれ」活動報告書作成 「ひめじ女性フェスティバル2000」において、夜の安全・安心チェック、及びまちづくりイベントの報告・展示
平成13年3月		「夜の安全・安心チェック」報告書作成
	5月	「はりまNPOボランティア大賞アワード2001」ブース部門奨励賞受賞
	10月 (シロトピア公園：参加者56名)	子供まちづくりイベント「シロトピア公園にみんな集まれ」開催 内容：参加者がグループに分かれ、グループ旗を作成、それぞれの指令書に沿って自主的に活動を行なう
平成14年3月		「シロトピア公園にみんな集まれ」活動報告書作成
	4月	「公園」の歴史、姫路市内の公園の歴史と分布を学習(姫路工大生参加)
	5月	実行委員会名称を「まちづくり安・安」に改称
	6～8月	全国の公園利用実態と新しい取組みの調査、市担当部署を尋ね公園の現状を学習
	9月	市内の特徴ある工夫された公園4箇所の現地調査
	10月	姫路南ライオンズクラブの空き地利用計画を取材
	11月	「ひめじ女性フェスティバル 01」に参加 公園4箇所の実態調査を紹介展示
平成15年5月		メンバーそれぞれの地域における公園の利用実態調査(姫路工大生参加)
	10月 (姫路市文化センター)	ミュージカル「みちぶしん」姫路公演(主催：播磨臨海地域道路網協議会)スタッフ参加
	11月 (東京国際フォーラム)	「女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム」参加(21団体の一つ) ～全国みちづくり女性団体交流会議～
平成16年3,4月		メンバーそれぞれの地域における公園の利用実態調査
	6,7月	近隣公園、地区公園の利用状況調査
	10月	児童センター、母親クラブ(定期的に公園チェック実施)と懇談
平成17年1月 (東京国際フォーラム)		「女性が語る道づくり・地域づくりフォーラム」参加(39団体の一つ) (「越のみちネットワーク女性会議」(新潟女性フォーラムメンバーによるNPO法人：防災のまちづくり研究等実施)もこれに参加している)

防災フェアの活用の検討について

毎年一回行われる「防災フェア」(内閣府主催、防災週間の時期に行われる)では、啓蒙イベントと防災ポスターコンクールを各地の都市で輪番制で開催している。この場を活用して、本ワーキングで打ち出されている防災まちづくり支援策のひとつである、交流会、表彰制度、フェイス・トゥ・フェイスのネットワーク構築活動等を検討していく。

防災まちづくり関係者の相互発表会の実施

防災まちづくりのコンペティションを行い、優れた取組みについては、表彰するとともに、防災ポータルサイトを通じて、全国のまちづくり組織に優れた防災まちづくりへの取組みとして広く発信する。

防災まちづくり関係者の交流会の実施

防災まちづくりポータルサイトに設ける、防災まちづくり広場との連携により、オフラインでの防災まちづくり関係者の交流の機会を提供する。

防災週間推進協議会関係資料

1. 防災週間推進協議会設立趣意書
2. 防災週間推進協議会について
3. 防災週間推進協議会幹事団体名簿
4. 防災週間推進協議会会員名簿

防災週間推進協議会

防災週間推進協議会設立趣意書

昭和57年6月25日

「災害列島」といわれる我が国は、古来より、台風、豪雨、地震などにくり返し見舞われ、多くの尊い人命と財産が失われてきました。

災害から国土と国民を守るため、政府を中心として様々な方面において大きな努力が払われてまいりました。その結果、災害対策制度の充実、国土保全事業の推進、各種防災施設・設備の整備などが図られてまいりました。

しかしながら、なお、毎年災害により相当の被害を受けております。「災害のない安全な生活」の確保は、国民の願いであります。このためには、国、公共団体による施策が一層強力に推し進められるとともに、国民ひとりひとりが、災害に対する認識を高め、日頃からこれに対する備えをしておくことが肝要であります。

「備えあれば憂いなし」という言葉があります。さる3月の北海道浦河沖地震では、住民の日頃の備えと的確な行動によって、「死者、火災ともにゼロ」という最小限の被害にとどめられたと報告されております。

このたび、政府においては、9月1日の「防災の日」を含む1週間を「防災週間」として設定され、防災知識の普及、防災意識の高揚を図るため、「防災フェア」を始めとする各種の行事が実施されることになりました。

「防災」は、広く国民的な課題であり、「防災週間」の目的を達成するためには、国民的な運動として展開されるよう官民協力して事業を推進していくことが必要であります。

こうした観点から、政府、地方公共団体と一体になって防災週間行事を実施し、もって、「災害の未然防止と被害の軽減」に資するため、ここに防災週間の趣旨に賛同する民間団体等により、「防災週間推進協議会」を設立するものであります。

防災週間推進協議会について

1. 名 称

防災週間推進協議会

2. 目 的

防災週間を国民的な広がりのもとに推進するため、政府、地方公共団体と一体となつて防災フェア等を始めとする諸行事を実施する。

3. 組 織

(1) 防災週間の趣旨に賛同する民間団体等により構成する。

(2) 会長 1 名をおく。

(3) 幹事団体をおく。

4. 運 営

運営については、幹事団体各 1 名の幹事で構成する幹事団体において協議、審議し、総会の承認を得て行うものとする。

防災週間推進協議会会長、幹事団体等名簿

1. 会 長

日本赤十字社

2. 幹事団体及び幹事

幹事団体

日本赤十字社

(社) 全国防災協会

(社) 日本ガス協会

(社) 不動産協会

(財) 日本防火協会

情報通信ネットワーク産業協会

(社) 生命保険協会

(社) 日本建設業団体連合会

電気事業連合会

(社) 日本損害保険協会

(社) 日本民営鉄道協会

3. 監査役

(社) 日本建設業団体連合会

4. 事務局

(財) 都市防災研究所

(平成16年6月時点)

平成15年度 事業報告

1. 防災フェア2003の実施結果
2. 第19回防災ポスターコンクールの実施結果

防災週間推進協議会

1. 防災フェア2003の実施結果

政府及び地元地方公共団体との共催で、防災週間の主要関連行事として開催している「防災フェア」について、平成15年度は8月29日（金）～9月1日（月）の間、東京都千代田区において開催した。

(1) 目的

各種展示、実演などを通じて、災害について認識を深めるとともに災害に対する心構え、地域や家庭における防災対策などについて正しい知識の普及を図り、国民の防災意識、行動力の向上に資することを目的として実施した。

(2) テーマ

メインテーマ：－みんなで守ろう わが家 わがまち－

サブテーマ：－関東大震災から80年

自助・共助・公助の精神で大震災に備えよう！－

(3) 開催期間

平成15年8月29日（金）～9月1日（月） 4日間

(4) 開催場所

丸ビル（東京都千代田区丸の内2-4-1）

(5) 主催

「防災フェア2003」実行委員会

（内閣府、東京都、千代田区、防災週間推進協議会）

(6) 後援

警察庁、防衛庁、総務省、消防庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、海上保安庁、気象庁

(7) 開催状況

別紙のとおり

「防災フェア2003」事業内容

主な催事	プログラム	日時	開催場所	
オープニング セレモニー	・挨拶 ・テープカット	8月29日(金) 11:45～12:15	丸ビル1F 「マルキューブ」	
	・東京消防庁音楽隊パレード	8月29日(金) 12:20～12:45	丸の内仲通り	
シンポジウム	・地域防災をテーマに、関東大震災80周年をむかえて震災後・戦災後・現代と移りゆく大都市東京についてのディスカッション	8月29日(金) 10:00～11:00	丸ビル7F 「丸ビルホール」	
分科会	・第一分科会 そのとき！大切な人はどこに？ (体験、パネルディスカッション)	8月29日(金) 13:00～14:30	丸ビル8F 「コンファレンススクエア」	
	・第二分科会 企業と防災(討論会)			
	・第三分科会 滞留者シミュレーション(図上訓練)			
	・第四分科会 帰宅困難者対策(図上訓練)	8月29日(金) 15:00～16:30		
	・第五分科会 在東京外国人にとっての防災(討論会)			
	・第六分科会 けが人搬送対応シミュレーション(図上訓練)			
ビデオ上映会	・20世紀の震災の記録上映 20世紀日本の地震災害 阪神大震災「時の記憶」～あれから5年～ 関東大震災の被災状況を伝える資料映像	8月29日(金) 13:00～17:00 8月30日(土) 10:00～17:00 8月31日(日) 10:00～17:00	丸ビル7F 「丸ビルホール」	
	各種展示・体験等	・帰宅困難者対策図上訓練 ・NTT災害用伝言ダイヤル体験 ・防災用品展示 ・安否情報確認システムの実験等 ・パネル展示 関東大震災	8月29日(金) 10:00～17:00	丸ビル1F 「マルキューブ」
		・パネル展示 災害の歴史 災害のサイエンス 防災対策 ・その他(映像提供、防災用品展示等)	8月29日(金) 10:00～ 9月1日(月) ～17:00	丸ビルB1F外 コンコース
	車両展示	・起震車、現地対策本部車、サインカー、白バイ、資材搬送車、クイックアタッカー、スペースポストの展示	8月29日(金) 10:00～ 9月1日(月) ～17:00	丸ビル1F 周辺屋外
関東大震災をたどるバスツアー	・消防博物館、震災祈念堂、江戸東京博物館等の施設を見学	8月30日(土) 12:30～17:30	震災記念堂、 消防博物館等	
防災訓練	・丸ビル内各企業の防災訓練	9月1日(月) 10:00～12:00	丸ビル全館	

2. 第19回 防災ポスターコンクールの実施結果

防災意識の高揚に資するため、毎年、本協議会と政府との共催で防災ポスターコンクールを実施している。

第19回目にあたる平成15年度は、児童（小学校低・中学年）の部、児童（小学校高学年）の部、学生の部、一般の部の4部門について、8月1日から10月20日にかけて作品募集を行い、約7,556点の応募作品の中から優秀作品を選定し、表彰した。

(1) 募集対象

小学生（児童の部）、中・高校生（学生の部）、一般

(2) 募集期間

平成15年8月1日～10月20日

(3) 主 催

内閣府・防災週間推進協議会

(4) 後 援

総務省消防庁・文部科学省

(5) 審査結果

① 優秀作品

■ 防災担当大臣賞（4作品）

○児童（小学校低・中学年）の部

川野 姫佳（愛知県安城市てらべ幼稚園年長）

○児童（小学校高学年）の部 大瀧 佳輝（徳島県三好郡屋間小学校6年）

○学生の部 岩崎 直子（静岡県焼津市立大富中学校3年）

○一般の部 白石 袈裟夫（東京都北区）

■ 防災週間推進協議会会長賞（4作品）

○児童（小学校低・中学年）の部

笠原 羽沙（愛知県尾西市立起小学校3年）

○児童（小学校高学年）の部 鈴木 亜里沙
（神奈川県小田原市立三の丸小学校6年）

○学生の部 谷口 彰（大阪府立三島高校3年）

○一般の部 星野 くらら（新潟県新潟市）

■ 佳作（9作品）

梶田 明仁（東京都杉並区立西田小学校1年）

小川 文菜（愛知県尾西市立起小学校 3年）
脇田 彩衣（大阪府柏原市立旭ヶ丘小学校 4年）
荒木田 千瑛（青森県田子町立田子小学校 5年）
山本 凌太郎（大阪府堺市立赤坂台小学校 6年）
清水 聡子（神奈川県横浜市立旭小学校 5年）
栗田 華苗（神奈川県相模原市立相武台中学校 3年）
原 江梨花（静岡県三島市立中郷中学校 3年）
島岡 太郎（千葉県佐倉市立西志津中学校 3年）

■ 入選（239作品）

氏名等省略

②審査状況

・予備審査 平成15年12月19日（金）実施

（審査員）

上田 文	葛飾区立白鳥小学校 教諭
宇野 義行	東京都立桐ヶ丘高等学校 教諭
清水 満久	昭和女子短期大学 助教授
鈴木 吉彦	江戸川区立上一色南小学校 教諭
竹内 とも子	中央区立日本橋小学校 教諭
永関 和雄	八王子市教育委員会指導室 室長

・本審査 平成16年1月13日（火）実施

予備審査を通過した約350点から各賞を選出

（審査員）

岸 ユキ	タレント（西野バレエ団）
柴田 啓次	前千葉経済大学経済学部教授
長谷川 ゆか	画家
藤吉 洋一郎	日本放送協会解説委員
堀野 政則	日本赤十字社救護・福祉部長
原田 正司	内閣府大臣官房審議官

③応募状況

部門	応募作品数	入選作品数	うち入賞作品数	
児童の部（低・中学年） 小学校1・2年生 小学校3・4年生	672 1079	22 40	防災担当大臣賞 1点 推進協会会長賞 1点	佳作 9点
児童の部（高学年） 小学校5・6年生	2736	91	防災担当大臣賞 1点 推進協会会長賞 1点	
学生の部 中学生 高校生	2157 748	67 26	防災担当大臣賞 1点 推進協会会長賞 1点	
一般の部	164	10	防災担当大臣賞 1点 推進協会会長賞 1点	
合計	7556	256	防災担当大臣賞 4点 推進協会会長賞 4点 佳作 9点	

(6) 表彰式

防災担当大臣賞、防災週間推進協議会会長賞の受賞者を招いて表彰式を行った。

- ・日時：平成16年2月10日（火） 午後12：30～
- ・場所：内閣府（防災担当）特別会議室（中央合同庁舎5号館 3F）

(7) 作品の活用

入賞作品については、「防災週間」・「防災ポスターコンクール」等の周知用ポスター、「防災フェア」等での行事での展示等を通じて、防災意識の高揚及び防災知識の普及・啓発活動に活用する。

「防災フェア2004」事業概要

1 開催日程及び開催地

平成16年8月27日（金）から同年9月1日（水）の6日間 於：札幌市

2 主 催

「防災フェア2004」実行委員会（内閣府，札幌市，防災週間推進協議会）

3 後援・協力

関係省庁，北海道及び防災関係機関・団体等

4 名 称

「防災フェア2004」

メインテーマ：－みんなで守ろう わが家 わがまち－

サブテーマ：－北の大地・札幌から“防災スピリット”発信－

5 イベントの概要

- ・オープニングセレモニー
- ・展示（車両展示、防災関係機関による展示）
- ・実演（防災はしご車、暴風雨体験装置、炊き出し訓練等）
- ・イベント（応急手当講座、防災クイズ等のステージイベント）
- ・防災シンポジウム（安全安心の防災都市について考える公開講座）

6 開催場所

- | | |
|----------------|-----------------------|
| (1) サッポロファクトリー | 平成16年8月27日（金）～31日（火） |
| (2) JR札幌駅南口広場 | 平成16年8月28日（土）～29日（日） |
| (3) 地下街オーロラプラザ | 平成16年8月27日（金）～9月1日（水） |
| (4) 札幌ドーム | 平成16年9月1日（水） |

「防災フェア2004」事業内容

開催場所	主な催し	概要
<p>サッポロファクトリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アトリウム ・二条館地下1階催事場 ・イベントプラザ ・ホール 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニングセレモニー 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ・テープカット ・音楽隊演奏など
	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係機関等の防災対策の取り組み紹介など ・ステージイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係機関の出展を通じて来場者の防災知識の普及啓発 ・防災パネル, 防災グッズ等の展示 ・家庭防災, ライフラインなど紹介 ・音楽隊の演奏, キャラクターショー, クイズ, ゲームなど, 楽しみながら学ぶ来場者参加型のステージを展開
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民講座を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災知識の普及を図り, 安全安心の防災都市について, 共に考える公開講座を開催
<p>J R 札幌駅南口広場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関出展など ・車両展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・応急救護 ・防災資機材取扱講習など屋外型の展示, 実演, 体験型の防災啓発を展開
<p>札幌ドーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練 ・閉会式 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練, 避難場所運用訓練など市民参加の訓練を実施
<p>地下街オーロラプラザ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関出展など 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災パネル, 防災グッズ等の展示

今後の調査スケジュール(案)

第1回ワーキング 平成16年12月10日

- ・現地視察 平成16年12月21日
(NPO 法人日本公開庭園機構)
- ・番外ワーキング 平成17年2月10日
(NPO 法人フュージョン長池)

第2回ワーキング 平成17年3月4日

- ・防災まちづくり支援策(防災まちづくりポータルサイト等)についての検討
- ・番外ワーキング
(NPO 法人江東区の水辺に親しむ会)

第3回ワーキング 4月中下旬予定

- ・専門調査会報告内容についての検討

「民間と市場の力を活かした防災力向上に関する専門調査会」
業務継続ワーキングと、防災まちづくりワーキング両部会報告

第4回ワーキング

- ・最終取りまとめ案の検討
- ・事務局による補足ヒアリング調査候補
大水崎自主防災会
大岩二丁目自主防災会
NPO 法人豊前の国建設倶楽部